

ファザーリング全国フォーラム in おおいた 実施報告書

- ◆日 程 平成 29 年 6 月 16 日（金）・17 日（土）
- ◆会 場 ホルトホール大分（大分県大分市金池南 1 丁目 5 番 1 号）
- ◆参加人数 延べ 2,500 人
- ◆内 容 1 日目：開会式、6 分科会、ブース出展
2 日目：6 分科会、メインシンポジウム、ブース出展
- ◆主 催 ファザーリング全国フォーラム in おおいた実行委員会
〔 NPO 法人ファザーリング・ジャパン、大分県、大分市、
NPO 法人ファザーリング・ジャパン九州、おおいたパパくらぶ、
おおいたおやじネットワーク 〕
- ◆後 援 内閣府、財務省、文部科学省、厚生労働省、日本労働組合総連合会、
大分県教育委員会、大分市教育委員会
- ◆協 力 NPO 法人ファザーリング・ジャパン東北、NPO 法人ファザーリング・ジャパン
関西、NPO 法人コヂカラ・ニッポン、育児情報誌 miku
- ◆協 賛 一般財団法人 1more Baby 財団、積水ハウス株式会社、ライオン株式会社



開会式

- ◆日時：平成29年6月16日（金）13:00～13:30
- ◆場所：大会議室
- ◆主催：実行委員会
- ◆実施内容：

【主催者挨拶】



大会実行委員長 安藤 哲也



大分県知事 広瀬勝貞

【イクボス共同宣言式】

- ・大分県、大分市、県内経済5団体の代表、大分労働局がイクボス共同宣言を実施
- ・県内各地の企業や団体に「イクボス」の動きが広がっていくよう、経済団体と行政が連携して積極的に取り組むことを宣言した



おおいたイクボス共同宣言

私達は、部下が仕事と家庭生活などを両立し、生き生きと活躍することができるよう、男女ともに働きやすい職場づくりに積極的に取り組む「イクボス」となります。

また、自らもワーク・ライフ・バランスを実践し、余暇には「おんせん県おおいた」自慢の温泉や味方、豊かな天然・自然に親しみ、家族や地域とともに人生を楽しみます。

そして、県内の企業や団体に「イクボス」の輪が広がるよう、経済団体と行政が連携して積極的に働きかけを行うとともに、「子育て満足度日本一」の実現に全力で取り組みます。

平成29年6月16日

大分県知事	広瀬 勝貞
大分市長	佐藤 樹一郎
大分県商工会議所連合会会長	姫野 清高
大分県商工会連合会会長	森竹 治一
大分県中小企業団体中央会会長	高山 泰四郎
大分県経営者協会会長	幸重 綱二
大分経済同友会代表幹事	姫野 昌治
大分経済同友会代表幹事	福島 知克
大分労働局長	小笠原 清美

【分科会1】「働き方改革」のすゝめ～イクボスが進める！男の働き方改革

◆日時：平成29年6月16日（金）13:45～15:15

◆場所：大会議室

◆主催：大分県

◆登壇者：川島高之（ファザーリング・ジャパン理事／コヂカラ・ニッポン代表）

松前孝二氏（株式会社日豊ケアサービス 事業運営管理 主任）

後藤久美子氏（株式会社大分銀行 人財開発部 人財育成グループ ダイバーシティ推進チーム 業務役）

◆実施内容：

【川島氏による基調講演】

組織の成果は「上司のイクボス度」「部下の満足度」「仕事と私生活の両立度」に比例する。3年間で残業を1/4に削減しながらも、利益は80%増を達成させた「元祖イクボス」

の具体的な実践内容や上司の心得について講演。

（講演内容）

- ・イクボスとは
- ・イクボス なぜ必要？
- ・イクボスになるためには（上司の心得）～私が上司として、やってきたこと～
- ・組織の生産性を高めるためには～私が部下としてやってきたこと、上司として部下にやらせていること～



【おおいたワーク・ライフ・バランス推進優良企業による事例発表】

（株式会社日豊ケアサービス）

- ・ワーク・ライフ・バランスに取り組み始めた理由・・・離職者が多かった
- ・取組内容・・・定年引き上げ、育児休業等の利用促進、ポスター掲示・意識改革
- ・我が社の「イクボス」の仕事・・・妊娠・出産・職場復帰報告を祝福、休業の制度説明、働き方の相談
- ・取り組みの結果・・・大分県初のプラチナくるみん認定
- ・今後の課題・・・時間外勤務削減のための業務改善、メンタルヘルス教育

（株式会社大分銀行）

- ・取組内容・・・育児休業制度等の見直し、ダイバーシティ推進チーム立ち上げ
- ・効果・・・女性の退職が減り役職者が増えた結果、生産性向上の意識が高まる
- ・今後の課題・・・働き方改革（問題は育児から介護へ）、男性の意識改革（上司として夫として）、女性の意識改革（社長を目指す）



【分科会2】子どもの「性教育」～いつから？父親はどう関わる？

◆日時：平成29年6月16日（金）13:45～15:15

◆場所：302会議室

◆主催：FJ思春期プロジェクト

◆登壇者：小崎恭弘（大阪教育大学准教授 NPO 法人ファザーリング・ジャパン顧問）

福井正樹（NPO 法人 KiRALi 代表理事）

林田香織（ファザーリング・ジャパン理事 パートナーシッププロジェクトリーダー）

村上誠（ファザーリング・ジャパン理事秘密結社「主夫の友」総統）

◆実施内容：

「思春期男子の育て方」著者の小崎恭弘氏、「思春期の子を持つ親への応援トーク&ライブ」が全国で好評の福井正樹氏、FJ パートナーシッププロジェクト林田香織氏を交えてのトークセッション。

スマートフォンから使えるリアルタイム投票ツール「mentimeter」を導入し、参加者からの意見をリアルタイムに反映させて議論を進める会場参加型のトークライブを行った。

最初に性に関連する幅広い話題を20項目提示し、参加者は関心があり登壇者に話して欲しい項目にスマホから投票するとモニター上のグラフに集計される。中でも投票数が多かった項目は、「性教育はいつから？」「家庭での性教育」「父親の関わり方」「男子の性教育」「男子の草食化、嫌悪感」などが挙げられ、これらの話題にも触れながら、今どきの若者の性意識・行動の変化、性教育の現状と課題、親や社会の役割について議論を展開した。

【トークセッション】

- ・全体的には思春期の子どもの性欲求や性交願望は低下傾向にあり、経験率も減少しており、結婚しない、セックスしない若者たちが増えている。
- ・一方で10代での妊娠、中絶数はあまり減少しておらず、若者の性が2極化している。
- ・インターネットのリスク。性的コンテンツに簡単にアクセス可能になり、間違った性情報が氾濫。ネットトラブル、JK ビジネスなど性消費被害が深刻。
- ・学校教育での啓発も大事だが、家庭での関わり方が重要。夫婦・家族関係の希薄さが子どもの性行動にも悪影響を与える。
- ・デートDVの問題。家庭での虐待、夫婦間のDVが根底にあるケースも多い。
- ・イクメンの子どもが思春期になり、子どもとの関わり方に悩む男性が増えてきている。
- ・父親不在、母子密着の影響もあり、異性と上手くコミュニケーションできない子どもが増えており、生涯未婚率も増加傾向にある。結婚するしないは子どもの自由だが、結婚できる関係を築ける力を養うことも性教育の一環ではないか。
- ・異性との関わり方のロールモデルとして夫婦のコミュニケーションを子どもに見せる。
- ・射精に対して嫌悪感を抱く男子が増えており、草食化が進んでいる。母親の男性性衝動への無理解、批判的対応が影響しているのではないか。
- ・思春期の子への父親の関わり的重要性。特に男子への性教育は同性である父親から伝える。
- ・包括的性教育の必要性。性教育と同時に生の教育をする。思春期の前にセクシャリティ教育をする。
- ・避妊教育だけでなく、さらに性感染症予防の知識・リスクを啓発する。

質疑応答では「mentimeter」に参加者からスマホで無記名で質問を投稿して貰い、「娘と息子がいるが、いつまで一緒に風呂に入っているのか？」「性に関する嫌悪感を持つ子どもに対して、親はどう性について伝えたらよいか？」の2つの質問に応えた。



【分科会3】「育児は仕事の役に立つ!?」～はじめよう、ライフスタイル改革!～

◆日時：平成29年6月16日（金）13:45～15:15

◆場所：303会議室

◆主催：内閣府男女共同参画局

◆登壇者：浜屋祐子氏（株式会社グロービス・ファカルティ本部研究員）

河野崇氏（大分下郡病院）

長末憲昌氏（積水ハウス株式会社・大分支店）

◆実施内容：

■Part1：トークセッション「家事育児参加で、オトコはどう変わる?!」

浜屋さんからの問いかけに、お二方の登壇者に率直に、感想や現状をお話し頂いた。

・家事育児に積極的に関わることになったキッカケについて？

「育児休業を取得して、一日乳児と過ごすことで母親だけが育児を担うことがいかに大変かを知った」「子どもの数が増えて（第3子が生まれて）妻が大部分を担う子育てはいよいよ限界だ、と分かった」「パパ達とのネットワークの中にも後押しされた」

・家庭での家事育児を担っていくための工夫として、パートナーとのこまめなコミュニケーションにおいて心掛けていることは？

「部下やチームメンバーに任せる」「あらかじめ予定を明らかにして段取りをする」「成果を決められた期限内に達成するように協力しあう仕事環境を作っている」

・親になって以降の変化は？

「タフさを身に付けた」「他者に任せることを知った」「周囲も育った」「育児という経験を通じて女性のチームメンバーの気持ちの理解や一体感が育まれた」「顧客に理解にも繋がった」



■Part2：ミニレクチャー「育児は仕事の役に立つ?!」

浜屋さんご自身の研究結果をまとめた著書「育児は仕事の役に立つ」を踏まえ、共働きの育児と仕事の類似性から、育児経験が仕事上の能力向上に与える効果「リーダーシップの向上」「人格的発達」等へのプラスの影響があること、本人のヘルプシーキング（助けられることを肯定する）志向が「育児の体制づくり」（=チーム育児）を促すこと、その体制（チーム）づくりのポイントが紹介された。



■Part3：「ライフスタイル改革」ワークショップ

内閣府が作成した「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」を基に浜屋さんが作成したオリジナルのワークシートを使って、セミナー参加者にご自身の家族のチームリーダーになったつもりで、近い将来の理想の生活、それに向けての課題の洗い出し、課題解決に向けたパートナーや解決方法、時間の使い方を考えてもらい、最後に“最初の一歩”として自らが始められることを宣言して頂いた。

会場からは、「家族のことを考えると、妻に目線が向きがち。チーム○○家の大切なメンバーである子どもの不満を聞くことをしたい。そのためには、ゆったり話を出来るような時間帯の帰宅をする。」といった宣言が紹介された。

【分科会 4】若者の未来は会社の未来 イクメン・イクボス必見！ライフデザイン講座

◆日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）15:45～17:15

◆場 所：大会議室

◆主 催：大分県

◆登壇者：酒井佐穂氏（株式会社 e n .）

◆実施内容：

地域や企業で働く若い世代やその上司を対象に、若者の人生設計（結婚、妊娠、出産、子育て等）を考える機会を提供することを目的としたライフデザイン講座を行った。

受講者からは、自身のライフデザインを考えたことがなかったもので、気づくことが沢山あり、自分の将来を見据える良いキッカケになった等の声が多数有り、ライフデザインの重要性を学ぶ充実した時間となった。

（講師紹介）

県内を中心に婚活先生として数々の結婚式、婚活支援事業を展開中。約 260 回の婚活イベント開催、約 1050 組のカップルを成立。昨年度は大分県の婚活支援事業にて、「おおいた婚活コーディネーター」として、婚活イベントやセミナーの開催、従業員向けのライフデザイン講座等、幅広い活動を実施。

（講演内容）

- ・なぜ「婚活先生」がライフデザインを？
- ・ライフデザイン・ライフプラン・ライフイベントとは？
- ・私のライフプランを設計してみましょう（ワークショップ）
- ・改めて気付くこと・考え直すことがありますか？
- ・自分・家族・会社（仕事）の未来が幸せであるために



【分科会 5】イクメン育成企業セミナー～男性の育休取得のために～

◆日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）15:45～17:15

◆場 所：302 会議室

◆主 催：厚生労働省（事務局：東京海上日動リスクコンサルティング株式会社）

◆登壇者：坂本直紀氏（坂本直紀社会保険労務士法人 代表社員）

◆実施内容：

男性の育児休業取得を促進するため、主に企業を対象としたセミナーを実施。

前半では、男性の育児休業取得の現状や男性の育児休業取得実績のある企業の取組事例を紹介。取組事例としては、九州の 2 つの企業の事例を紹介した。

一つは、専門・技術サービス、建設業の事例、一つは病院の事例であり、異なる業種の企業について、取組内容とその効果を紹介した。いずれも、業種特有の取組ではなく、汎用性のある取組を中心に紹介し、幅広い業務の企業の参考となる内容であった。



後半は、企業が職場内研修を行うためのポイントの解説と、グループワークによる検討を行った。職場内研修を行うためのポイントについては、厚生労働省が作成した従業員向け研修資料と動画資料をもとに、企業の担当者が職場内で研修が行えるように、特に重要な点、注意が必要な点の解説を行った。動画資料の視聴時には、ドラマで示した企業の悪い点、良い点について受講者の意見を聞き、熱心に視聴していた受講者から積極的に意見が出された。

また、グループワークにおいては、各人が自社の現状と課題、その対策を検討した上で、グループで話し合っ解決策の検討を行い、2 グループが発表を行った。活発な議論が行われ、発表時には自身の環境を踏まえた課題と対策についての考えが聞かれた。

今回のセミナーは、**少人数で行った分**、対話型のセミナーを行うことができ、もともと比較的意識の高い受講者の理解を深め、さらなる意識の向上が図れたものとする。



【分科会 6】実現しよう！公共サービスの活用で理想の家族計画と子育て満足度日本一

～子育てを支える社会保障制度～

◆日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）15:45～17:15

◆場 所：303 会議室

◆主 催：財務省

◆登壇者：林田香織（ファザーリング・ジャパン理事、ロジカル・ペアレンティング LLP 代表）

塚越学（ファザーリング・ジャパン理事、公認会計士）

内木場豊（ファザーリング・ジャパン理事、ウチコバンク代表）

佐久間寛道（財務省 広報室長）

◆実施内容：

【全体の進行】

- ①林田氏から、FJ と財務省のこれまでの取組みについて紹介
- ②塚越氏から、大分県における男性の家事・育児参画状況等基礎データについて導入
- ③内木場氏によるミニマネー講座
- ④佐久間氏による子育て支援制度との財政にかかわりについての講演
- ⑤参加者との質疑応答・意見交換

【林田氏の説明概要】

・FJ と財務省の取組みとして、今回のような全国フォーラム分科会に加え、地方各地において座談会形式にて子育て支援と税の関係を話し合う「ロールモデルカフェ」を年 5 回程度、都内において年 1 回「税と子育てフォーラム」を開催している。

・参加者からは、普段は税金を負担してばかりいるという意識になりがちですが、実は受益のほうが多いという見方に変わったり、自分たちでものごとを考え、企業にも働き掛けていこうという意見をいただいている。地道な取り組みではあるが、全国津々浦々で行うことにより、SNS 等による拡がりを契機として子育て世代の方が税と子育て支援の関係に興味を持っていただきたいと思います。

【塚越氏の導入部分概要】

・大分県は H21 年から子育て満足度日本一実現に向けたプランを作成・実行し続けてきた結果、合計特殊出生率や家事・育児時間に占める夫の時間の割合が、全国平均を上回っている。

・一方、夫婦の平均理想子ども数が 2.81 であるのに対し、平均予定子ども数 2.37 であり、差が生じている。主な理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「自分の仕事に差し支えるから」といったような、個々の家庭の経済事情への影響に関するものである。

【内木場氏の講座概要】

・ライフプランにおいて大きな支出となるものは、教育資金、住宅資金及び老後資金である。これまでの典型的なライフスタイルを前提にすると、この 3 つに優先順位をつけるとしたら、①老後資金、②教育資金、③住宅資金。

・一方、「貯蓄のチャンス」の時期は大きく分けて 3 つ。①子どもが生まれる前のご夫婦のみ又は独身の時期、②子供が小学校に入学して以降の時期、③子供が就職した後。



- ・ライフプランを具体的に考えると逼迫しそうな時期が見えてくるため、そこで必ずしも必要不可欠でない支出を抑える等の対応ができるようになる。
- ・これからは「100年ライフ」と言われていますが、定年の考え方がなくなり稼ぎ方が変わっていくとすると、上記のようなライフプランも変わっていくだろう。
- ・稼ぐ力は片働きと共働きで生涯2億円の差が出るといわれる。稼いだ分を貯めながら、低金利時代はNISAやiDeCo等を活用し増やしていくことが重要だ。

【佐久間の講演概要】

- ・日本の現在の財政状況は、国民の受益額が負担額を上回っており、バランスが取れていない。特に高齢化によって今後、年金、医療などの給付が多くかかる高齢者の割合が増えていくため、課題となっている。
- ・国際的な比較をしても、日本は他に例を見ない超高齢化社会として社会保障給付費が急激に伸びている。保険料収入で賄いきれない部分を国及び地方負担（実質的には借金）で賄っている。
- ・今の国の財政状況を家計に例えると、収入が630万円なのに対して支出が975万円、収入の約半分の金額を借金していることになる。
- ・このような状況であるが、今の日本の社会保障制度を維持していくためには国民全体で負担を分かち合わなければならない、消費税率の引き上げにつながった。消費税収はすべて社会保障に充てられている。



【参加者からの質疑応答一部概要】

- ・参加者 A) 児童手当の所得制限が厳しくなるという報道がありますが、子どもの数を増やすインセンティブを削ぐことにならないのでしょうか。
- ・佐久間) 児童手当を含め、ある政策のために予算を増やすということは、国の借金増に直結します。国の借金は60年かけて返済することになり、自分の子どもや孫に負担を転嫁しているということになります。将来世代にまで負担を転嫁させてまで、その政策の実行を優先すべきか、ということまで考えていくことが重要です。
- ・塚越氏) こういった議論は、なぜなされないのでしょうか。
- ・佐久間) 国レベルの議論においては、例えば保育園をどこにいくつ作るというような具体策が決まることはあまりなく、自治体の政策議論において決まるケースがほとんどです。そして自治体の意見というものは、本日ここに集まった方の力があれば、変えていくことが出来ると思うのです。
- ・塚越氏) 自治体を中心となって行っていることに、現役世代の声がまだまだ反映されていないのですね。ファザーリング・ジャパンが求めている育児への参画、地域への参画が発展途上であることが、この問題のポイントだと思いました。

【分科会 7】九州パパサミット

◆日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土）10:00～12:00

◆場 所：大会議室

◆主 催：NPO 法人ファザーリング・ジャパン九州

◆登壇者：幸野晋也氏（おおいたパパくらぶ・大分）/関根志朗氏（育メンズ倶楽部ながさき・長崎）

水野直樹氏（肥後パパ料理の会・熊本）/平田翔一氏（かごんまパパサークル・鹿児島）

長友芳立氏（ふぁーぎーずみやざき・宮崎）/谷口忠（ファザーリング・ジャパン九州・佐賀）

吉村伊織（ファザーリング・ジャパン九州・福岡）/小崎恭弘氏（ファザーリング・ジャパン顧問）

◆実施内容：

【登壇者の自己紹介・団体紹介】

各団体の設立経緯やミッション、活動内容を交えながら、自己紹介と団体紹介を行った。

小崎氏から全国のパパサークルの調査報告があり、全国的に数は少ないことが分かった。低予算で活動している団体も多く、なぜパパサークルが必要なのか、どのように活動を進めているかなどの問題提起を受け、パパサミットに移った。

【九州パパサミット】

コーディネータや来場者からの質問を受けながら、それぞれの家庭・団体の状況を語った。

○パパサークル立ち上げのきっかけ

- ・自治体が企画したパパ講座の参加者が立ち上げた。
- ・最初はお互いの悩み相談から始まり、共感する人が集まってきた。
- ・自分が「遊び」をやりたくて、周りに声をかけて実行するうちに広がった。

○父親が家事・育児にかかわることに対する周囲の反応（友人、知人、職場）

- ・親や祖父母世代からは、「女性のようだ」と言われたこともある。
- ・職場では少数派。メンバーの中には、職場での男性の育休取得第一号もいて、周囲に想いを共感できる人が少ない。

○どうやって参加者を増やすのか

- ・なかなか新規メンバーが増えない団体もある。
- ・最近設立した団体や新規メンバーが増えている団体は、SNS 等で活動状況を知って参加者が集まっている。積極的に情報発信することが必要ではないか。
- ・参加しているメンバーが楽しむこと。楽しんでいるところに人は集まる。

○活動を続ける秘訣

- ・サークルの立ち上げ時期から、いかにキーパーソンを見つけるか、巻き込めるかが大きなポイントとなる。
- ・行政と協力した事業を実施するなどして、メンバー自身が活動の意義を感じられることがモチベーションにつながる。

○どうすればパパの活動に参加するハードルを越えられるか

- ・定例会や飲み会を継続して開催し、いつでも気軽に参加できる状況をつくる。
- ・男性は「仕事」が会話のきっかけになることが多いため、仕事のネタを話せるようにする。

○パートナーの理解を得ながら進めるには

- ・お互いに感謝し合う。



パパサークルの存在は、父親が悩みを語り合う場としても必要という共通認識が生まれた。今後パパサークルの設立を企画している自治体もあり、協力しながら九州各地でパパサークルが立ち上がって、情報交換しながら九州全体を盛り上げていきたい。

【分科会8】親子でつくって遊ぼう！ ～北村直登のペーパーアニマル～

- ◆日時：平成29年6月17日（土）10:00～12:00
- ◆場所：302会議室
- ◆主催：大分県
- ◆登壇者：北村直登氏（株式会社NAOTO KITAMURA ATELIER）
- ◆実施内容：

北村直登氏は、色彩豊かでダイナミックなタッチが特徴の絵画で著名な大分市在住のアーティスト。2人の子どもの父親として本フォーラムの趣旨に賛同し、制作活動や個展の開催など多忙な中、分科会でのワークショップ実施を引き受ける。

ふれあいを目的とする親子向けのワークショップであったが、北村氏の人気が高く、すぐに募集定員に達したため、参加が叶わなかった方も多かったと思われる。

【冒頭】

- ・北村氏が自身の子どもとの関わりなどについて自己紹介。ペーパーアニマルの制作については、失敗してもよいので楽しんでほしいと挨拶。
- ・ポスターの裏紙やカラー紙などに自由に色つけした後、紙を2つに折り、ハサミで切り抜いた動物を制作するもので、プロジェクターの映像でわかりやすく手順を説明した。

【ワークショップ】

- ・各テーブルにて、親子30組がそれぞれ工夫しながらペーパーアニマル作成に挑戦。北村氏は各テーブルを回り、作成のアドバイスを行う。
- ・作品が完成したところで、親子全員の作品を1点ずつカメラで撮影してプロジェクターに映し出した。子ども達から作品に対する感想を述べてもらい、北村氏がコメント。
- ・カメ、キリン、ライオン、シカなど見本のみならず、それぞれの親子が工夫して作成した様々な動物たちがプロジェクターに映し出され、子ども達の自慢げな様子が印象的であった。



【終わりに】

- ・北村氏が「今日作った作品は持ち帰らず、家に帰ってお父さんと一緒にたくさん作ってほしい」と挨拶。
- ・母親の参加者も多く、幅広く親子の交流が図られた。



【分科会 9】秘密結社主夫の友×Lidea 「夫婦円満サミット」 supported by LION

◆日時：平成 29 年 6 月 17 日（土）10:00～12:00

◆場所：303 会議室

◆主催：秘密結社主夫の友（FJ 主夫の友 PJ）、Lidea

◆登壇者：堀込タイゾー（秘密結社主夫の友 CEO）

村上誠（秘密結社主夫の友 総統）

佐久間修一（秘密結社主夫の友 総務）

杉山ジョージ（秘密結社主夫の友 広報）

伊野波美恵子（ライオン 快適生活研究所 所長）

杉本美穂（ライオン リビングケアマイスター）

松本秀男（一般社団法人日本ほめる達人協会 専務理事）

◆実施内容：

【コンセプト】

男性が中心となって家事育児をすることで、新しい夫婦円満の形をみつけてきた秘密結社主夫の友と、家事スキルとほめるテクニックをレクチャーする“夫婦円満都市推進プロジェクト”で、従来の夫婦を円満に導いていた Lidea。違うアプローチから夫婦円満を目指してきた 2 つのチームがコラボレートして、さらに日本の夫婦を円満にするにはどうしたらいいのか？話し合うサミットです。

司会：村上誠（秘密結社主夫の友 総統）

■各団体紹介

*秘密結社主夫の友 CEO 堀込タイゾー

*Lidea ライオン快適生活研究所 所長 伊野波美恵子

■基調講演「夫婦ライフバランス論とは」(20 分)

秘密結社主夫の友 広報 杉山ジョージ

⇒夫婦が円満であるために主夫の友メンバーが提案する考え方「夫婦ライフバランス」

ワークライフバランスとは違う、夫婦がコミュニケーションをとって二人でバランスを取ることの重要性をプレゼン。

■夫婦円満都市推進プロジェクト プチセミナー

*夫婦円満都市推進プロジェクト実施経緯と拝啓について

(ライオン リビングケアマイスター 杉本美穂)

⇒Lidea チームが昨年、宮崎県日南市と組んで実施した「夫婦円満都市推進プロジェクト」について実施に至った経緯を説明。また、そのきっかけになった調査で明るみになった夫婦の“家事ギャップ”についてデータをもとにプレゼン。

*ほめるテクニック講座（一般社団法人日本ほめる達人協会 認定講師 松本秀男）

⇒家事ギャップ調査で明らかになった夫の家事に前向きになれない理由のひとつ

“やっても（妻に）文句を言われる”これを解消するために妻を中心にほめるテクニックをレクチャー。

*食事の後片付け講座（ライオン リビングケアマイスター 杉本美穂）

⇒家事ギャップ調査で明らかになった夫が家事に前向きになれない理由のひとつ

“やり方がわからない”これを解消するために夫を中心に正しい食事の後片付けの仕方についてレクチャー



■トークセッション夫婦円満サミット

「原因も解決法もわかってるのになんで夫婦円満にならないのか？」

ファシリテーション 主夫の友 村上

登壇：主夫の友 堀込 杉山 佐久間

ライオン 杉本 松本

トークテーマ：男性の家事育児参画を阻むものは何か？

夫婦円満を阻むものは何か？

夫婦円満のためにあったらいい制度は？

それぞれの立場からの意見が飛びだし活発な議論が交わされた。

特に「男性の家事育児参画を阻むものは何か？」というテーマではライオンの杉本マイスターより、日南市で行われたプロジェクトで行った経過調査が発表され、レクチャーを受けた夫婦が、家事について前向きになったという成果について語られた。



【分科会 10】 ザ・キャビンカンパニー×おおいたパパくらぶ
～男性の子育て座談会&絵本の読み聞かせライブ～

◆日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土）13:00～14:30

◆場 所：大会議室

◆主 催：おおいたパパくらぶ・大分県

◆登壇者：【男性の子育て座談会】

阿部健太朗氏（ザ・キャビンカンパニー）

祖父江伸矢、飯田亮、山口慎介、篠原丈司（おおいたパパくらぶ）

【読み聞かせライブ】

ザ・キャビンカンパニー（阿部健太朗氏、吉岡紗希氏）

おおいたパパくらぶメンバー

◆実施内容；

第一部：男性の子育て座談会

・登壇者自己紹介

ザ・キャビンカンパニーの阿部氏から自己紹介を兼ねて活動紹介

大分パパくらぶ祖父江から自己紹介を兼ねて活動紹介

以下、登壇者から自己紹介

・座談会テーマ① 子どもが生まれてからの働き方・生活の変化

・座談会テーマ② 子育てや家事の失敗談

・客席からの質疑応答



Q. 典型的な昭和の男が家事や育児をするようになるにはどうしたらいいか？

※家族の形や働き方は多様であり必ずしも正解はないが、その時々状況に応じて夫婦間の相互理解を深めることで最適化を図ることが大切。また、男女関係なく一通りの家事・育児ができることは、片方に何かがあった時に家庭生活がストップしてしまわないためにも必要なこと。

第二部：絵本読み聞かせライブ

・音楽の演奏つき絵本読み聞かせ おおいたパパくらぶ feat. FJ 安藤代表

※三びきのやぎのがらがらどん

・読み聞かせ②～④ ザ・キャビンカンパニー

※新作ねむれないおうさま、くつしたしろくん、だいおういかのいかたろう

終了後、絵本即売会＋サイン会



【分科会 11】 おおいたんおやじ、やるときゃやるけん！ ～おやじの会の活動とは～

◆日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土）13:00～14:30

◆場 所：302 会議室

◆主 催：おおいたおやじネットワーク

◆登壇者：山下 荃三（おおいたおやじネットワーク・事務局長）※ファシリテーター
御幡 秀則（西の台小学校父親部ととろクラブ・元部長）
一万田正彦（おおいたおやじネットワーク・代表世話役）

◆実施内容：

【オープニング前まで】

昨年 11 月実施の「第 8 回大分おやじ座談会」のビデオ上映

【オープニング／導入】（山下）

・本日の分科会のプログラム説明
・おやじの会の説明・・・基本的に小中学校の父親の子どもの教育環境整備や地域・学校支援を行う団体。

・大分市内のおやじの会の状況（25 年アンケート調査より）

【大分の特徴的なおやじの会】（御幡） ととろクラブの活動紹介

- ・ 4 月入学式の記念撮影シャッターボランティア、1 年生学校探検、安全教室
- ・ 5 月学校奉仕活動、田んぼ整備と田植え指導、おやじの社会見学
- ・ 6 月田植えイベント（豊後大野市）
- ・ 7 月地区夏祭り、ハッピーコーンプロジェクト（とうもろこし狩りと寄付）
- ・ 9 月ダンボールハウスキャンプ

実践事例としてととろクラブのお父さんスタッフが会議室後ろでダンボールハウス組み立て実演

- ・ 10 月大分教育の日に 5, 6 年生へ「世界一受けてもらいたい授業」（ととろメンバーが先生）
- ・ 12 月子ども屋台選手権参加（NPO 法人主催イベント）
- ・ 2 月巨大紙相撲大会、フンバスターズ

・ 毎月定例会、など発表

【おおいたおやじネットワークの設立と役割】（一万田）

- ・ おやじの会の悩み～立ち上げがわからない。何をしたらよいか。資金は。PTA との関わり
- ・ 父親同士の、おやじの会の横の連携が必要⇒おおいたおやじネットワークの設立
- ・ 活動内容 「大分おやじ座談会」「ハッピーコーンプロジェクト」「スキルアップ研修会」「ネットワーク集会」など

・ 目指すところ 大分のおやじが元気になる！おやじの会の普及支援など

【情報共有・意見交換】

- ・ ダンボールハウス 3 タイプの説明と見学
- ・ PTA 所属のおやじの会と、地域任意おやじの会との違い
- ・ 今年度「第 9 回大分おやじ座談会」の告知 PR

【感想をお寄せ頂きました】

とても興味深く聞かせてもらいました。私は歴史ある地域に外部から入り PTA 活動をしています。人口減少により PTA 活動全体がパワーダウンしており、父親の組織だった活動が求められています。でも、『おやじの会』のような組織がないので、これから作っていかれたらと思っています。（皆様の）お話しとても参考になりました。スタッフの皆様も本当にありがとうございました。



【分科会 12】カップル・夫婦のためのパートナーシップコミュニケーション

◆日時：平成 29 年 6 月 17 日（土）13:00～14:30

◆場所：303 会議室

◆主催：FJ パートナーシップ P J ・大分県

◆登壇者：織田 弦氏（NPO 法人ファザーリング・ジャパン）

◆実施内容：

初めに織田氏からパートナー間でコミュニケーション不足になる原因などについての説明や統計データの報告がなされた。また、「妻の心に届く伝え方」では、“感謝や労いの言葉を忘れない”や“話は結論ではなく共感して聴く”など、「夫の心に届く伝え方」では、“文句から入らない。挨拶と気遣いから。”や“感謝と賞賛がモチベーション”など例を交えながら話をする場面では多くの参加者がメモを取る様子が窺えた。



次のグループワークでは、内閣府男女共同参画局作成の「夫婦が本音で話せる魔法のシート」を使用。参加者がテーマ毎に互いの気持ちを伝え合う場面では活発な意見交換がなされた。

○夫婦が本音で話せる魔法のシート「〇〇家作戦会議」

・テーマ1 素直な気持ちを伝えてみよう

→自分がどんな暮らしをしているのか、日々どんなことを思っているのかをパートナーとシェアした。

・テーマ2 2人の今を再確認！

→今の暮らしをグラフで振り返りながら、自分の理想の暮らしについて考え、シェアする中で新しく発見したこと・意外なことを相手に伝えた。

・テーマ3 「家のこと」のシェアの仕方を考えよう

→家事・育児の分担度合いを目盛りグラフを使って確認し、その家庭にあった理想の家事・育児のシェアを考えた。

・テーマ4 3年後の自分たちを想像してみよう

→仕事、子育て、趣味などについて、こうありたい姿を具体的に想像しながら、家族のこれからを話し合った。



最後に「ことばにしよう！私の思い “私から私へ” “私からパートナーへ” “私からみんなへ”」をテーマにしたメッセージをボードに書いてもらい、写真撮影をした。

【メインシンポジウム】家族愛・夫婦愛がつくる笑顔あふれる子どもの未来

◆日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土）15:00～16:30

◆場 所：大会議室

◆主 催：大分県、NPO法人ファザーリング・ジャパン

◆登壇者：ユージ氏（モデル、タレント、俳優）

安藤哲也（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）

二日市聖子（大分県福祉保健部こども未来課長）

・ユージ氏による家族愛や夫婦愛をテーマにした基調講演のあと、ユージ氏、安藤実行委員長、大分県 二日市課長によるフリートークが行われた。



閉会式

- ◆日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土）16:30～16:45
- ◆場 所：大会議室
- ◆主 催：大分県、NPO法人ファザーリング・ジャパン
- ◆登壇者：安藤哲也（ファザーリング全国フォーラム in おおいた実行委員長）
佐藤一郎（大分市長）
長谷尾雅通（大分県福祉保健部長）
海田智浩氏（広島県商工労働局産業労働部長）

- ・安藤実行委員長の大会総括のあと、大分県 長谷尾部長から広島県 海田部長へ大会旗の引継が行われた。



- ・次期開催予定地の広島県知事のビデオメッセージが紹介され、佐藤大分市長による閉会挨拶で大会を締めくくった。



出展ブース

◆日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）、17 日（土）

◆場 所：1 階エントランス

◆出展団体：内閣府、厚生労働省、財務省、大分県、おおいたおやじネットワーク、おおいたパパくらぶ、NPO 法人ファザーリング・ジャパン、一般財団法人 1more Baby 財団、積水ハウス株式会社、LION 株式会社

◆実施内容：国の機関や協賛企業などによりパネル展示、ブースイベント等を実施

